

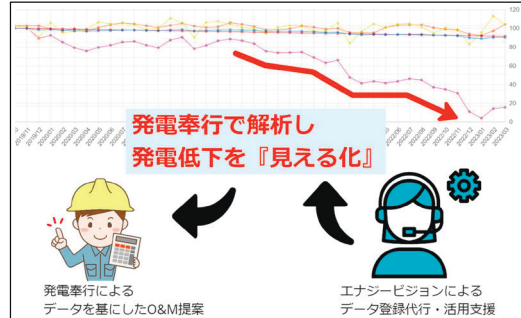
低下を「見える化」、クラウド上に保管できる。

太陽光発電所の発電量は年々緩やかに低下していく。そのため多くの太陽光O&M、特に低圧発電所のO&Mでは、発電

量の急激な減少や発電停止には対処しても、長期間にわたる発電量の漸減には対応しない。しかしそうした発電量低下は、経年劣化ではなく原因を排除すれば回復する

太陽光発電O&Mサービスのエネルギービジョン

(東京都千代田区)と一般社団法人新エネルギーO&M協議会(東京都千代田区、JOMARE)は、産業用太陽光発電のO&M事業者・大手発電事業者向けのクラウドシステム「発電奉行」の提供を1月より開始した。登録した発電所の発電電力量データを簡単な操作で解析し、中期から長期の発電



「見える化」システム販売

発電奉行によるデータに基づいたO&M提案

エネルギービジョンによるデータ登録代行・活用支援

中長期の太陽光発電電力量低下の「見える化」システム発売

エネルギービジョン／新エネルギーO&M協議会

早期対処・傾向値からの対応を可能にして売電ロス最小化

電力量の傾向を確認できる。想定を上回る発電電力量を見つけて早期の改善に繋げる。もう一つは「時間帯別PCS間相对比较」で、不具合箇所や発電低下要因を絞り込む。

遠隔監視システムから過去の発電電力量データをダウンロードし、本システムに登録して解析する。過去の発電電力量を継続解析が1回当たり50円(税込)。活用支援サービスでは個別相談による活用支援が有料になる。月に一度の「勉強会」によるフォローは無料。

なお発電奉行には発電電力量データの登録代行および活用支援サービスが有料オプションで用意されている。手間のかかる遠隔監視システムからのデータダウンロードから登録までエネルギービジョンが作業を代行。データ解析も代行する。初期登録・初期発電電力量解析が1980円(税込)、継続解析が1回当たり50円(税込)。活用支援サービスでは個別相談による活用支援が有料になる。月に一度の「勉強会」によるフォローは無料。

早期対処・傾向値からの対応を可能にして売電ロス最小化